

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.197

2016/04/07

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

『山門水源の森2050』本格始動

— 食害との闘いが最重要課題 —

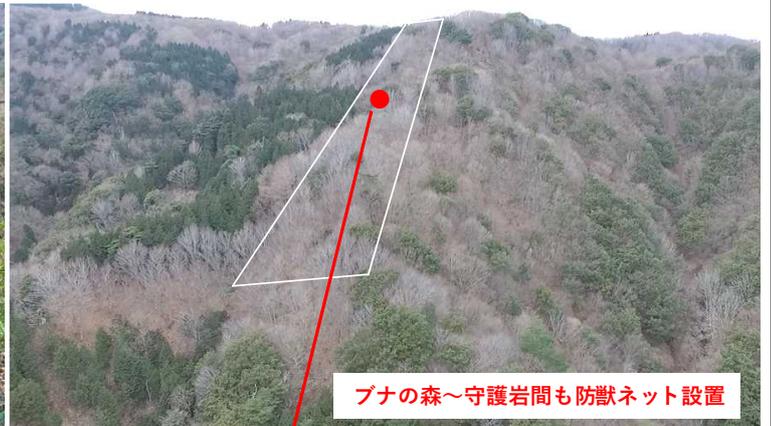


南部湿原ネット補強作業 (16/03/26)

「山門水源の森」(63.5ha)の生態系異変は予想以上です。本会の仮発足した1998年当時予想もしなかった事態となってきました。当初は湿原の「盗掘」に頭を痛める程度だったのに、現在では森の下層植生が丸裸になるのではないかと気をもむ日々が続いています。シカには忌諱植物があると言われてはいますが、山門水源



天然更新試験地ネット補強・調査ロープ更新 (16/03/26)



ブナの森～守護岩間も防獣ネット設置

の森での観察では、今やアセビ以外は何でも喰うという事態になっています。観察コースの確保のため毎年ササ刈りをしてきたブナの森コースは、今ではササ全滅寸前の状態(写真右)になりました。ブナ林の下層植生はササが一般的です。何とか再生をしたいと大規模再生を実施することになりました。この再生範囲には上ノ荘生産森林組合の土地が含まれています。同組合に趣旨に賛同してもらうこともできました。またこの事業には「長浜市市民活動団体支援事業」の助成をもらえることになり、事業に取りかかっています。おおよそ50%は枯死しているササ原が再生するかどうかへのチャレンジでもあります。単にササの再生にとどまらず生物多様性の保全という大きな課題への挑戦でもあります。県下で進行する多様性の衰退の歯止めの一つの試みでもあります。他方既に発芽し始めたササユリの食害防止作業も同時に進めています。これらの作業は、時間との闘いです。ほぼ毎日誰かが作業をしていますので、参加可能な会員はスケジュール表を確認してもらうか、事務局(090-3487-0941)にご連絡下さい。



ブナ林のササ枯れ状態 (16/03/30)



トクワカソウ群落 (16/04/03)



シカの食害がこの森で確認されてからもトクワカソウは長らく喰われることはありませんでした。しかし 2013 年にはわずかに喰われたものが見られましたが、それほど拡大しませんでした。しかし昨年春から少し目立つようになり、今年は分布範囲も縮小してきました。この部分は森の中でもっとも広い群生地である

ため、保護を優先（観察もしにくい）し防獣ネットを設置しました。

ユキバタツバキタグ付け完了

昨年から実施し始めた無尽蔵にも思えたユキバタツバキの全株タグ付け作業が 4/2 には多くの会員参加で無事完了しました。総株数は **7,078 株**となりました。ただ初期に作業



1株ずつにタグ

をした部分では、小さい株に付けていなかったのが今後補完作業を行います。引き続き**開花調査**を実施します。この調査には佐治会員が考案してくれた「**佐治式ユキバタツバキ花大計測器**」（花の付いた枝に差し込むだけで大きさが測れる）を使って、調査員によるバラツキが出ないように調査を行います。色・形・大きさ・花糸の色・花糸の切れ込みの程度等々花を楽しみながらの調査です。

佐治式ユキバタツバキ花大計測器



2011年以来大開花のタムシバ (16/04/03)

今年は 2011 年以來のタムシバの大開花が続いています。これほど山門水源の森にタムシバがあったかと驚くくらいです。もちろん比良山麓・朽木溪谷でも山が白くなるほどの状態です。



スマレサイシン・ミヤマカタバミの宝庫だったのに (16/04/06)

早春の谷沿い斜面は、つい5・6年前までトクワカソウ・スマレサイシン・ミヤマカタバミの宝庫でした。今年のそこは、これらの植物がなめるように喰われてしまい、表土が向きだしになっています。かろうじて垂直な壁にスマレサイシンが咲いていますが、横のスゲは喰われています。

このような下層植生の貧弱化は、ここ山門水源の森だけではありません。このまま放置することは、私たちの文化基盤も壊れてゆきます。



スマレサイシン (16/04/06)

